研究成果の紹介

1 露地小ギクの暗期中断処理による盆出荷作型

ねらいと成果

盆需要を目指した露地の小ギク栽培は、年次により開花期が変動し、需要期である盆前に品薄になる現象が往々にして生じている。そこで、盆前に計画的に出荷するために日長感応性（長日条件で花芽分化が抑制される）を持つ８品種を利用して暗期中断処理（以下深夜照明と呼ぶ）による盆出荷を検討した。その結果、１月下旬の親株施設の暖房開始直後から深夜照明処理を開始し、開花反応期間が長い品種は６月中旬に処理を終了すれば、盆前に出荷できることがわかった。

内　容

兵庫県山南町での自然開花期が７月上旬から８月上旬の21品種から深夜照明（白熱灯による深夜５時間の照明処理）で開花が抑制される13品種を選抜した。この中から品質の良好な８品種を深夜照明の下で2001年４月19日に定植した。６月11日に処理を終了して、自然日長の下で開花させた。

これらの品種の自然開花日は年次により大きく変動し、2000年に比べて2001年は４～19日（平均12日）早く開花した。一方、深夜照明を行った場合、両年における開花反応期間の年次差は０～４日（平均２日）と極めて小さかった（表）。2001年に実施した深夜照明の作型は、「はじめ」他３品種が高需要期である８月上旬（８月６～７日）に開花したので、これらの品種はそのまま盆出荷作型に適用できた(図)。また７月下旬に開花した「白鳥」他３品種は、深夜照明終了時期を１週間程度遅くすれば８月上旬開花が見込まれた。この作型で得られた切り花は長さが90cm以上、重さが60ｇ以上になり優れた品質を備えた。

普及上の注意事項

深夜照明終了後の開花反応期間は品種により異なるので、品種毎に処理終了時期を変える必要がある。

小山　佳彦（農業技セ・園芸部）

表　自然開花日および開花反応期間の年次による差異ならびに切り花の形質

品種	自然開花日			開花反応期間(開花日)[z]			切り花の形質[y]	
	2000年（月．日）	2001年（月．日）	差（日）	2000年（日,月．日）	2001年（日,月．日）	差（日）	長さ（cm）	重さ（g）
白鳥	7.5	6.16	19	49(7.25)	45(7.26)	4	102	78
千代	7.14	7.7	7	49(7.25)	47(7.28)	2	99	71
紅千代	7.18	7.5	13	51(7.27)	48(7.29)	3	96	62
やよい	7.16	7.12	4	51(7.27)	50(7.31)	1	109	82
はじめ	7.24	7.15	9	58(8.3)	56(8.6)	2	111	74
みのる	7.11	7.1	10	56(8.1)	58(8.8)	2	102	85
はるか	7.12	6.28	14	58(8.3)	57(8.7)	1	106	87
ほたる	7.18	6.29	19	58(8.3)	58(8.8)	0	109	90
平均	7.15	7.3	12	54(7.31)	53(8.3)	2	104	79

[z] 暗期中断処理終了日(2000年：6月6日、2001年：6月11日)から開花までの日数
[y] 2001年の暗期中断処理区の切り花

○：点灯　●：消灯　¶：暖房　▼：さし芽　◎：定植　×：摘心　‖：整枝　☆：開花

図　7月咲き小ギクの暗期中断処理による盆出荷作型